



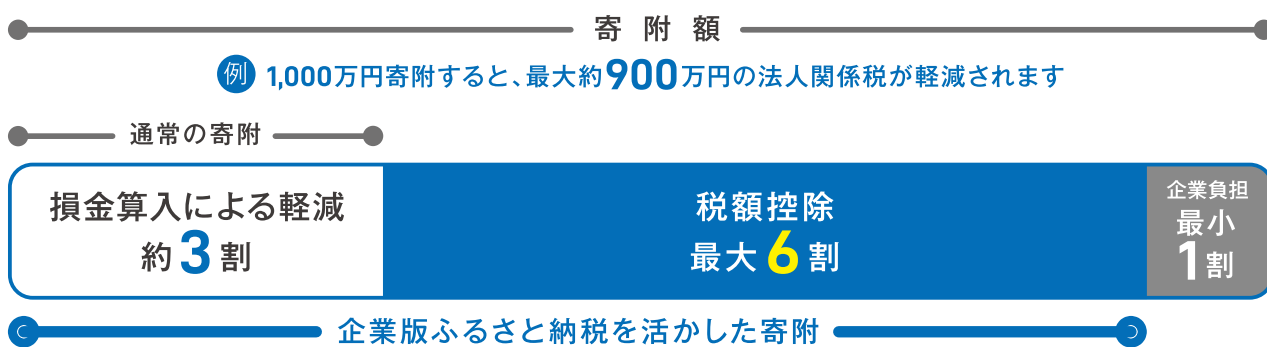
神戸市
企業版
ふるさと
納税

企業版ふるさと納税は

国が認定した地方創生プロジェクトに対して寄附を行った企業が法人関係税から税額控除を受けられるしくみです

神戸市ではご寄附を通じた、地方創生やSDGs達成に向けたパートナー企業様を募集しています。

税負担軽減イメージ



パートナー企業のメリット

社会貢献・
SDGs

神戸市HPでの
PR

神戸市との
パートナー
シップ

寄附の流れ

寄附の申出

寄附の対象事業や寄附額を決定後、寄附申出書をご提出いただきます。

寄附の受領

本市が発行する納付書により、本市指定の金融機関でお振込みいただきます。入金確認後、本市より受領証をお送りいたします。

税申告手続き

受領証をもとに、税務署で税申告の手続きをお願いいたします。

留意事項

- 神戸市外に本社がある企業が本制度の対象です。
- 1事業あたりの寄附は10万円からとなります。
- 寄附を行うことの代償として、経済的な利益を受け取ることは禁止されています。
(例：寄附の見返りとして補助金を受け取ること、整備された施設を専属的に利用すること)

対象事業例

こちらに記載のプロジェクトのほか、「神戸まち・ひと・しごと創生推進計画」に位置付けている**すべての事業が対象**です。

応援したい事業の相談も行っておりますので、まずはお気軽にご連絡ください。

1



耕作放棄地の再生による 新たな食のフードチェーン構築プロジェクト

学生や企業との協働により、耕作放棄地で栽培・収穫した古代小麦を使った食品を販売するフードチェーンを確立し、都市と里山の資源循環モデルの構築をめざします。

2



神戸登山プロジェクト

近代登山発祥の地とされる神戸で、自然や景観を守りながらより安全に山々を楽しんでいただくために、環境整備や六甲山の新たな魅力づくりに取り組みます。

3



豊かで持続可能な神戸の海づくり

須磨海岸や神戸空港周辺などの海域において、藻場の造成による新たなCO₂吸収源としてのブルーカーボン活用や、多様な生き物を育む生態系の創出に取り組みます。

4

こうべ再生リンを活用した 資源循環プロジェクト

下水処理の過程で回収したリンを原料とした肥料で米や野菜を育て、再び食糧として消費することで、貴重なリン資源が循環し続ける社会をめざします。

5

大学都市・神戸の強みを活かした 人材育成・地域活性化プロジェクト

23の大学・短期大学に約7万人の学生が通う神戸市と企業、大学が連携し、人材の育成・定着に向けた教育プログラムや地域課題解決のための研究活動に取り組みます。

こうべ女性活躍プロジェクト

女性の「はたらく」を、もっと自由に

「あすてっぶコワーキング」は、神戸駅から徒歩7分とアクセスもよく、無料で子どもと一緒に仕事や就職活動ができる施設です。子どもと離れて集中したい時のために、無料の一時保育サービスも提供しています。女性のためのキャリア相談やセミナーも開催しています。「子育てが落ち着いたので働きたい」、「子育てしながらキャリアアップしたい」など、一人一人の希望に寄り添い、情報提供やアドバイスを行います。男女ともに多様な生き方、働き方が実現できる神戸を目指して、これからもプロジェクトを推進していきます。



働きやすさにつながる機器の導入やキャリア形成に役立つセミナーを実施

ご寄附を活用して、「あすてっぶコワーキング」の一時保育利用枠を最大12枠に拡充したほか、個室型遮音ワークブースを増設することができました。また、年間約400人が参加する、デジタル人材育成プログラムやキャリアアップセミナーを通じて、女性が希望に応じた働き方を実現できる環境を提供しています。

Interview

ご利用される皆さまの困りごとや悩みを汲み取り女性の「はたらく」を全力でサポート

当施設は、お仕事に集中したり、自分自身のキャリアを考えたりしたい方のための場所です。私自身も子どもを育てながら起業やキャリアチェンジをした経験があり、このような施設の誕生を切望していました。利用者みなさまにとって、自宅でも職場でもないサードプレイスのような場所となれるように、引き続き、利用者同士の繋がりづくりやコワーキングの快適な利用をサポートしていきます。



コミュニティマネージャー
宝田 ひかり

月8回の子連れコワーキング 設備やサービスをフル活用し、モチベーションもアップ

上の子が生後6か月の頃から、月に8回利用しています。フリーランスで活動していますが、自宅で子どもを見守りながら仕事に集中するって、本当に難しいんです。この施設には、一時保育のサービスもあり、利用時間中は安心して仕事に集中することができるので、とても助かっています。(長田区からの利用者)





こども本の森 神戸

こどもたちが命の大切さを学び、 感性と創造力を育む場を創る

絵本、図鑑、文学、画集、外国語の本。好奇心にあふれたまなざしと小さな手で、見つけた“自分だけの一冊”は、こどもたちの可能性を開く扉となります。

「こども本の森 神戸」は、対象年齢にしばられずに約25,000冊の蔵書と自由にふれあえる、こどものための文化施設です。建築家の安藤忠雄氏の寄附により2022年3月に神戸の中心地・三宮に誕生し、これまでにのべ15万人の方にご利用いただきました。この施設が将来にわたって、神戸のこどもたちの豊かな感性と創造力を育む場であり続けられるよう、皆さまのご支援をお願いします。

金銭的なサポートで、企画の幅が広がり より豊かな体験を届けられるように

いただいた寄附金は、本の購入やイベント開催に充てています。年間約80件の体験型イベントでは、絵本に出てくる音楽を聴くために音楽家を招いたり、旭山動物園から園長をお迎えしたり、充実した企画を実施できました。また、企業の方に講師をしていただく「〇〇の学校」というシリーズも好評で、こういった形でのご協力も歓迎しています。



Interview

広い世界の「知」と出会う図書館で 神戸の子どもたちの豊かな育ちを応援したい

読書は子どもにとって、広い世界を知る手がかりとなります。そして、その世界を五感を使って体験することで、みずみずしい感性が生まれ、創造力の種となります。イベント企画や選書では、建築家・安藤忠雄さんが「こども本の森 神戸」に込めた、この思いを大切にしています。親子で本を作る活動など、スタッフには構想中のアイデアが山盛りです。これからも、息の長い活動で、神戸の子どもたちの成長を応援し続けていきたいですね。



こども本の森 神戸
館長 森川美紀子

子どもが喜ぶ仕掛けがたくさん！ 何度も通って、お気に入りを見つけています

友だち親子と来ていて、今日が3回目です。家でも近所の図書館でも絵本はよく読みますが、ここへ来ると広いスペースに、たくさんの絵本があって、私も知らない絵本に出会えます。館内には色々なエリアがあるんですが、この階段下のスペースが子どものお気に入りです。引き出しを開けて、絵本が出てくるとニコッと笑っています。東遊園地もきれいになって、ますます遊びに行きやすくなりましたね。(東灘区からの来館者)



KOBE 2024 世界パラ陸上競技選手権大会

パラスポーツを通じて共生社会の輪を広げる

2024年5月17日(金)～25日(土)に東アジア・日本で初となる世界パラ陸上競技選手権大会が神戸で開催されます。本大会や関連イベントを通じてパラスポーツへの関心を高め、障害や多様性への理解を深めることができるよう、学校や地域において体験型授業やパラアスリートとの交流活動に取り組みます。本大会には国内外から多くのパラアスリートとその関係者が集うことから、大会を契機に、国内におけるパラスポーツの更なる普及・発展や、障害に対する理解やバリアフリー化の促進など、インクルーシブ社会の実現にもつなげていきます。



誰もが活躍できる共生社会の実現に向け 子どもたちに“生きた学び”を提供する

神戸市内の児童・生徒を対象に、パラスポーツの世界を体験し、相手の感情や考えに寄り添い、より深い理解を生み出す学びのプログラムを提供しています。また、「神戸2024パラ世界陸上」のチケットや交通費等を助成し、多くの子どもたちに観戦してもらおうプロジェクト(ONEクラス応援制度)の財源として、寄附金を活用いたします。

Interview

見えない世界を“支える”体験を通じて 様々な選択肢や可能性を追求し、視野を広めてほしい

イベントでは、参加者が二人一組になり、アイマスクや白杖を使用して、“見えない”とはどんなものか、また、それを支えるために、どのような声かけやサポートが必要であるかを体験します。役割を交代して、障がい者と支える人のどちらの立場も経験することで、相手の立場や気持ちに寄り添う「真の想像力」を育みます。次世代を担う子どもたちに、共生社会を考えるきっかけにしてほしいです。



T&F.net KOBE
代表 野口 研治さん



“見えない”ってこういうことなんだ！ リアルな体験を通じて得た驚きで、意識と行動が変化

目が見えない状況を体験したり、野口さんのお話を伺うことで、パラスポーツやパラアスリートに対する意識や考え方が大きく変わりました。特に、競技者と伴走者が力を合わせて、目標に立ち向かっていく姿が印象的でした。今後、障がい者の方が困っている場面を見かけたら、声かけやお手伝いをしてみようと思います。

(神戸市立垂水東中学校の参加者)



企業版ふるさと納税 (人材派遣型)の活用

持続可能な循環型社会に向けて 専門人材の知見を生かす

「海と山が育むグローバル貢献都市」を目指す神戸市では、自然環境の保全や循環型社会の実現に取り組んでいます。その一例として、2021年からは、全国初となるプラスチック資源に特化した回収ステーションを設置し、従来よりも一歩進んだ「まわり続けるリサイクル」を推進しています。中心となっているのは、官民連携で地方創生を進めるための「企業版ふるさと納税(人材派遣型)」を活用し、アマタ株式会社から環境局に派遣された職員です。質の高いプラスチック資源の回収に必要な知見を活かして、事業を推進しています。

企業のノウハウと市職員の 身分を活かしてプロジェクトを推進

資源回収ステーションには、もう一つ、地域交流の拠点としての役割も期待されています。誰でも気軽に立ち寄れる交流スペースや、リユース衣類のコーナーを設けることで、ごみ出しをきっかけに地域住民同士の交流が生まれています。企業版ふるさと納税により派遣された、専門的な知識をもつ職員が、神戸市環境局の一員として、運営と新規開設を進めています。



Interview

自治体での経験を持ち帰る “エバンジェリスト(伝道師)”になることを期待

企業や自治体に対して「循環」を軸としたサステナブルな経営や地域運営の支援サービスを提供する当社にとって、行政だけでなく地域のことを理解し、地域に根差すという視点が大変重要です。多様性に富み、日本の縮図ともいえる神戸市に社員を派遣し、自治体でしか経験できない業務を通じて、社員自身の成長につなげることはもちろん、そこで得た知見や情報を活かしながら次の事業の柱を育てていきたいと考えています。



アマタ株式会社
取締役 宮原 伸朗さん

地域とのコミュニケーションは、自身のキャリアにおける貴重な財産

地方自治体という経験したことのない環境に不安もありましたが、環境局の皆さんのおかげで職場に馴染むことができました。資源回収ステーションは、プラスチックを回収するだけでなく、子どもや高齢者など幅広い世代が交流できるコミュニティとして利用いただいています。地域住民の方々とコミュニケーションをとりながらこの取り組みを市内全域に展開するという活動を通じて、自治体職員ならではの貴重な経験を積み重ね、今後のキャリアに活かしていきたいと考えています。(神戸市環境局職員 櫻井 盛太郎)





神戸市 企画調整局 企業連携推進課 企業版ふるさと納税担当

〒650-8570 神戸市中央区加納町6-5-1

T E L 078-322-6967

E-mail kigyo_furusato_kobe@office.city.kobe.lg.jp

このパンフレットに記載されている情報は2024年3月時点のものです。



神戸市
企業版ふるさと納税

